〔一〕　第四千八百五十四號　〔日曜日〕　昭和十二年二月二十一日　夕刊　〔毎月三十二回第三種郵便物認可〕

市制に就いて

神野銀四郎

上

市制施行近しとか。市制を發展せしむるに如何にすべきと云ふ不動の方針を樹てゝ戴きたい。去日と今日と滿足する事、その外にも問題にはある事だらうが

町當局や町議諸公は平町もとより吾等町民の希望する處、然しそれは平町自體の內容充實せう進歩發展に依つて齎らすべきであるとすると町民は迷惑だ。

○

平町に現在以上に發展の餘地が無いなら兎も角、きつと〳〵市內の至る處に空地が有る。町當局の方針如何に依つて三百五百の戶數や人口を增加せしむる事が出來るのだ。當局道路も無い北の方へ發展させ様とする。とても吾等に

○

市制施行に依つて益する

ものは？

商業取引上現住より幾分の利便があると云ふ事と、郵便物や名刺に福島縣石城郡の六文字を書かずに濟み吾等の肩身が廣くなる様な氣のすること、市會議員病にかゝつて居らるゝ方々の接洽にはある事だらうが

冬の詩

稻島　早人

（この思念のつぶやき）
クバコ色の夜—
みかんの皮をむいてゐた……
蒼々と雪の窓に添ひ女二人
裏道の冬——
影うるさく自らの想ひを怖れ
天井に寫り寫る貧貌
日毎歌ひ—この木枯しに弱く

小名濱灣頭即事

珠雲　小野務平

修港多時費萬錢
八分工就美奏鮮
荒隊只合開生面
早見潛頭來去船

今日の訓へ

哲名　由人

すべて書を讀むときは、著者と一緒に思考を進めて行くことが必要で、即ちかれの流儀に從つて物を考へることを練習すべきである。されば如何ならむつかしい書と雖へどゝ解るもので所謂讀書自遍意義自ら通ずとはこの意味である

哀しき手まね

清野・重郎

○手まねにてしきりに何か告げあへる二人のをみなは聾なるらしも
○目は見ゆれど聾と生れたるをみなゆゑ手まねにて告ぐるは見るもいたはし
○うら若くみめよきにあはれ物言へぬをとめのかなしさよ手まねにて告ぐ
○手まねにて告げあふ二人の表情は常ならず見うけはしかりけり
○かくばかり生れて悲しきことやある不具のをとめと汝は育ちしか

聾、聾、盲。三重苦の聖母（ヘレン・ケラー女史の來朝に當作を想ひ出づ）

破魔弓に就いて

橋本生

三

和訓栞『正月兒童の弄ぶものなり。破魔弓などかけゞ、もと鏑の輪にて、蟇目にて輪を作り、是をまろばしにて、童子に射を習はしむ業なり、今も是獸を射習ふ業なり、今も田家に良風遺りて濱弓、裙矢とよべるなり、小兒の圍居して遊ぶを、はまのわにといへり

されど小野宮左大臣幼童の時、馬內侍が許にいたりて、小弓を射給ふに、物書かる造紙をかけ物に出してり、翌日清愼公の贈り給ひし歌ゆれども、はまの正說にあらず、はま弓のたはふれ、『いつしかと明て見たればらず、はま弓のたはふれ、千鳥跡ある事にあとのなき皆は扉にも何方にも有し事のはまを馳し走りしむるを各々射るなり、はまの穴をみだ、もう充分に心やすくなつて始終物を貫つたり趣走になつたりしてゐる手前はまだ走り終れば、又一方よりまろばし返して各々いるをるたりとするなり、はまのなり

並ぶと云ふも是より出づといへり

四季草『正月男子のもてあそびに、はま弓射る事は正月に幼童はまを弓を射るは邪鬼を退治するの表相なり的は薬縄を以て作る、其形はまとは破魔と書いて、魔圓座の如し、徑り一尺ばか、其中に徑二三寸の穴あり、これを名付けてはまと云ふ所の內中の民家にては正月に幼童はま弓を射る事は正月

女『今日は了念さん、お前さんに折入つて相談があるね』

了『そうなりやあ私も、どの位有難いかわからないが何だか濟まないような氣がしますす』

女『何濟むも濟まないもあるものかね、それぢやあ承知をして呉れたの、まあ嬉しい、それぢやあお前は今日から私のお父さんだよ、呼ぶから返事をしておくれもお父さん』

了『何うも變だなあ、へいまし』

女『我子に呼ばれてへいとは何者があるかね、あいよ、とか何とかに云ひな、お父さんの樣に喜ぶ樣子、了念も變な氣持になつたが然しそではない、それから半月ほど經つと

女『お父さん、よく來てくれた、お前に喜んで貰ふ事があるんだよ』

了『何だを』

女『私あいよ〳〵身受けになるよ』

了『エッ』

女『先から馴染のお客なんだが、今度私を受出してお妻にしてくれるのだとさ、また父さんの事も承知してゐるのだから、とう〳〵今度こそは望が叶つて、お前を手元へ引取る事も出來る早くお前に知らせて喜ばさうと思つて晩夜も私ア寢られなかつたよ』

了『そうかえ、そりやあまあいゝあんばいだつた、俺も迎が向いて來たかな』

女『そうだともさ、これからはモウお父さんに鉦を叩かせてお貰ひはさせないよ絹布ぐるみの御隱居樣で安樂に來行するよ、もう少しだから我慢して待つてゐておくれ』

了『どうもそれは有難いな旦那といふのは堅氣のた方かえ』

女『あゝ堅氣だとも、大商人だよ、それでネ遊んでゐても勿體ないからつて私にも店を出させ何か小商ひでもさせて呉れるんだつて、嬉しいぢやないか』

了『あいよあいよ』

女『あゝ嬉しいつ』

と女は首つ玉へ抱きついて頬すりをしてまるで子供のように喜ぶ樣子、了念も變な氣持になつたが然しそではない、それから半月ほど經つと

女『お父さん、よく來てくれた、お前に喜んで貰ふ事があるんだよ』

了『何だを』

女『私あいよ〳〵身受けになるよ』

了『エッ』

女『先から馴染のお客なんだが、今度私を受出してお妻にしてくれるのだとさ、また父さんの事も承知してゐるのだから、とう〳〵今度こそは望が叶つて、お前を手元へ引取る事も出來る早くお前に知らせて喜ばさうと思つて晩夜も私ア寢られなかつたよ』

了『そうかえ、そりやあまあいゝあんばいだつた、俺も迎が向いて來たかな』

女『そうだともさ、これからはモウお父さんに鉦を叩かせてお貰ひはさせないよ絹布ぐるみの御隱居樣で安樂に來行するよ、もう少しだから我慢して待つてゐておくれ』

了『どうもそれは有難いな旦那といふのは堅氣のた方かえ』

女『あゝ堅氣だとも、大商人だよ、それでネ遊んでゐても勿體ないからつて私にも店を出させ何か小商ひでもさせて呉れるんだつて、嬉しいぢやないか』

女『今日は了念さん、お前さんに折入つて相談があるね』

了『そうなりやあ私も、どの位有難いかわからないが何だか濟まないような氣がしますす』

女『何濟むも濟まないもあるものかね、それぢやあ承知をして呉れたの、まあ嬉しい、それぢやあお前は今日から私のお父さんだよ、呼ぶから返事をしておくれもお父さん』

了『何うも變だなあ、へいまし』

女『我子に呼ばれてへいとは何者があるかね、あいよ、とか何とかに云ひな、お父さんの樣に喜ぶ樣子、了念も變な氣持になつたが然しそではない、それから半月ほど經つと

女『お父さん、よく來てくれた、お前に喜んで貰ふ事があるんだよ』

了『何だを』

女『私あいよ〳〵身受けになるよ』

了『エッ』

女『先から馴染のお客なんだが、今度私を受出してお妻にしてくれるのだとさ、また父さんの事も承知してゐるのだから、とう〳〵今度こそは望が叶つて、お前を手元へ引取る事も出來る早くお前に知らせて喜ばさうと思つて晩夜も私ア寢られなかつたよ』

了『そうかえ、そりやあまあいゝあんばいだつた、俺も迎が向いて來たかな』

女『そうだともさ、これからはモウお父さんに鉦を叩かせてお貰ひはさせないよ絹布ぐるみの御隱居樣で安樂に來行するよ、もう少しだから我慢して待つてゐておくれ』

了『どうもそれは有難いな旦那といふのは堅氣のた方かえ』

女『あゝ堅氣だとも、大商人だよ、それでネ遊んでゐても勿體ないからつて私にも店を出させ何か小商ひでもさせて呉れるんだつて、嬉しいぢやないか』

女『今日は了念さん、お前さんに折入つて相談があるね』

了『そうなりやあ私も、どの位有難いかわからないが何だか濟まないような氣がしますす』

女『何濟むも濟まないもあるものかね、それぢやあ承知をして呉れたの、まあ嬉しい、それぢやあお前は今日から私のお父さんだよ、呼ぶから返事をしておくれもお父さん』

了『何うも變だなあ、へいまし』

女『我子に呼ばれてへいとは何者があるかね、あいよ、とか何とかに云ひな、お父さんの樣に喜ぶ樣子、了念も變な氣持になつたが然しそではない、それから半月ほど經つと

女『お父さん、よく來てくれた、お前に喜んで貰ふ事があるんだよ』

了『何だを』

女『私あいよ〳〵身受けになるよ』

了『エッ』

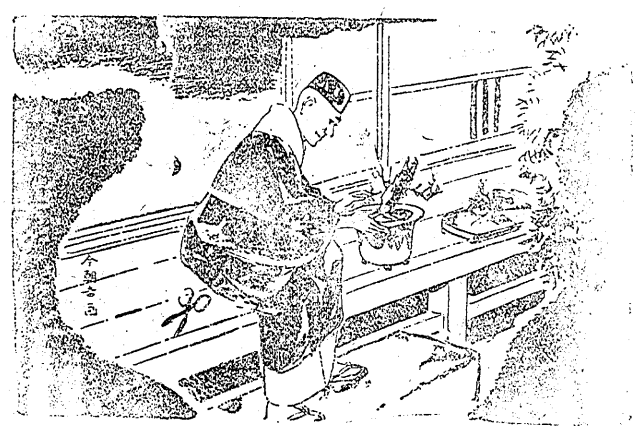
女『先から馴染のお客なんだが、今度私を受出してお妻にしてくれるのだとさ、また父さんの事も承知してゐるのだから、とう〳〵今度こそは望が叶つて、お前を手元へ引取る事も出來る早くお前に知らせて喜ばさうと思つて晩夜も私ア寢られなかつたよ』

了『そうかえ、そりやあまあいゝあんばいだつた、俺も迎が向いて來たかな』

女『そうだともさ、これからはモウお父さんに鉦を叩かせてお貰ひはさせないよ絹布ぐるみの御隱居樣で安樂に來行するよ、もう少しだから我慢して待つてゐておくれ』

了『どうもそれは有難いな旦那といふのは堅氣のた方かえ』

女『あゝ堅氣だとも、大商人だよ、それでネ遊んでゐても勿體ないからつて私にも店を出させ何か小商ひでもさせて呉れるんだつて、嬉しいぢやないか』



妖刀流轉

（18）

邑井貞吉演

佐々木今朝吉畫

（十）

櫂次の最期

すると或日の事

生れつきの不仕合せで親類も何にもない一人ぼつち心細くて仕方がない、その中に私も年があければ何處かへ片づかなくてはなるまいが、私が自由の身體になつたらお前さんを引取つて孝行をしたいが私の望み、何卒了念さん私のようなものでお父さんに成つて呉れて、私を名付けてはまと云ふ所の內中の民家にては正月に幼童はま弓を射る事は正月

と涙ぐみながらの女の顏をみだ、もう充分に心やすくなつて始終物を貫つたり趣走になつたりしてゐる手前はまだ走り終れば、又一方よりまろばし返して各々いるをるたりとするなり、はまのなり

了『そりやあ花魁本當です

了『そりやあ花魁本當です

豆炭、コールタール販賣
一、品川豆炭　大袋五貫匁入　金七十五錢也
　小袋壹貫匁入　金二十錢也
壹袋カラ配達致シマス、ドウゾ御注文下サイ。
一、コールタール一本（十五キロ入）　金八十五錢
一本ヨリ配達致シマスカラ是非御試メシ下サイ。
電話三七番
阿部石炭店

洋服裁縫
時代ニ適シタ職業
○學歷（尋卒）（高卒）
○年令（十六、七歲迄デ）
小徒弟募集（十名）
佐川洋服店營業所
（電四一八番）

ヌード
百日咳、氣管支カタル、寒冒、肺炎、急性及慢性氣管支カタル、小供の咳に甘くて飲よい
平町田町
阿部藥舖

平町南町五二
產婦人科醫院
根本莊次郎
根本貞雄
電話三四番
（入院隨時）

銘木（床ノ間材）
天井板、ベニヤ板買ふなら
確かに御期待に添ふ良品廉價の
萬織田材木商店へ
福島縣平町
電話平四六〇番
營業……建築木材一式
種目……銘木・ベニヤ板
秋田產杉四分板
建具材・便利瓦

一發せる勉強振りを、せひ一度お試を乞ふ

難波醫院
內科
小兒科
入院應需
自炊の便あり
平町大町
電話五〇二番
（看護婦見習、看護婦募集）
醫學博士　難波睦

外科、內臟外科
エツキス光線科
院長　安齋徹
新設……產婦人科
醫學士　黑澤廣
平町田町
入院隨意　安齋醫院
電話四七五番

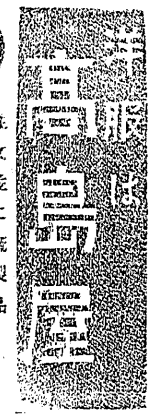
生徒募集
文部大臣認可
平陽女學校
平町　電話四四五番
一、本科一年（二ヶ年卒業）　五十名
一、技藝科一年（二ヶ年卒業）　五十名
一、專攻科（一ヶ年卒業）　二十名
一、各科二年（補缺入學）　若干名
一、科外生　1洋裁科　若干名
　2タイピスト發成科　若干名
一、入學願書提出　三月三十一日迄
一、新學期開始　四月一日ヨリ
一、學則入學案內書御申込により差上げます。

石城郡平町田町五番地
千代田火災保險株式會社代理店
公社債式株
現物賣買
電話仲介
常盤光威
電話四六番
小店員募集（十五、六才）　委細面談
一司堂印舖
平町三丁目警察通り

賞印は
刻方に依つて
運の向く賞印と
運を失ふ賞印と
になります
易者

磐城の御みやげ品
名物　靈峰羊羹（みやま）　金十錢
姉妹品　柿羊羹。のり羊羹。
沼ノ內辨天羊羹。
御旅のお出入には好個のお土產品です。
小賣御希望の方お申越下さい。
小川郷醫舖
製造發賣元　平屋賣店

（高）
高島屋洋服店
注文並に既製品
平町二丁目電話三八六番

今冬の流行物
澤山入荷致しました……


和洋建具……
家具……
テーブル……
椅子……
其他裝飾品一般……
御用命は迅速ノ御努め致します。
諸官衙
各學校
御用達
平町五丁目四
（月）
月寄製作販賣店
片寄小彌太
電話四八四番

夕刊
二月二十一日發行
定價一ヶ月金六拾五錢
（日曜祭日休刊）
發行所　磐城新聞合資會社
編輯兼印刷人　柏木哲
印刷所　磐城新聞合資會社
磐城支社所在地　平町五六五番
東京一〇一番

町民の總意を無視し
大問題決定は不可解
昨夜三丁目有志の會合

描かるる市制への波紋

平町の市制實施が町の存立上果して差當り必要不可缺のものであるかどうかを正しい角度から凝視せんとする三丁目有志の懇談會は、由來町の神經中樞部であり而も立体的建築の構成美其他近代都市の形態を備へ、既に夙くから市制促進の急先鋒たらねばならぬ立場に置かれて在る同町内の催し丈けに、一部から多大の注視を集め乍ら昨十九日午後六時からマルトモ・ホールに於て開かれたが參會者二十八名、大谷武雄氏を座長に推し最初座談會の形式で各々意見を交換したが大勢は

町としては此際市制促進以上急施を要する問題はないか、而も町から市への機構改正は町民にとつて可なりの重大問題であるが之に對し町當局は如何なる態度をとつて來たか

と云ふ樣な事になり、是に於て意見取纏めの便宜上更に協議會に改め夫々協議の結果

町を市に看板塗り替への大事業を敢行せんとするに際し町民の總意を全然關心の外に置くが如きは町民として將來不安に堪へない事である、日常相接近し或る意味に於て町議以上密邇の關係に在る區長は從來該問題に對し何等か意見を徵された事があるかどうか、一應其間の事情を明かにする必要がある

との見解から一組二名宛三丁目全体八名の委員を擧げ、今二十日梅原區長と會見懇談し其の結果如何により今後の方針を定める事になり十一時散會したとの事で、町當局の意向が既に明二十一日の市制要請町會迄に進んで居る今日些か六菖十菊の憾みが無いでは無いが、三丁目が遽然として投じたこの一石が問題の大局に如何なる波紋を描くかは町近來の問題として少からず刺目さるるに至つた

加藤行政課長に會見

既報―合併問題に關する平窪村の反對陳情團一行は豫定通り金成、比佐、鈴木の郡選出貴衆兩院議員に會見夫々諒解を求めたる上內務省に出頭、同村出身五十嵐儀三郎氏の斡旋で行政課長加藤於兎丸氏に會見詳細陳情の上昨十九日夜歸村した

―平窪村の陳情團歸る―

小名濱の新豫算
八十萬圓突破か
新規事業に期待集る

躍進途上の商港都市――小名濱町の明年度豫算は目下各部委員會にかけて居るが實に八十萬圓を突破する尨大なものになるらしく、昨十九日より町會協議會を開き種々審議の上來月初旬本會議を開き決定する

新規事業の主なるものは

同町永年の懸案たる上水道費の四十八萬圓を筆頭に小學校新築、青年、實業兩學校の獨立並に水野技藝女學校を町立として實科女學校への設立費合計八萬圓、本通り外町道三線の舖裝費五萬五千圓の案內で四倉港、仁井田川出陣馬の整衛を急いでゐる

迫經濟部長
來廿二日來郡

迫縣經濟部長は明後二十二日來郡小林平土木監督所長を訪ひ、形式的意義に於ては大藏大臣の監督を受ける法律上內務大臣の許可を受ける場合も內務大臣の監督を受ける、但し教育に關しては文部大臣財政に關しては大藏大臣の監督を受ける市は一定の地域とその地域に住する市制と市の事務を執行する、機關(1)市會、市議決機關(後出市參照)(2)市參事會、市會議長より選出したる名譽職參事會員及び議長(市長)を以て組織する市の副議決機關である市會は市の大綱に屬する意思を決議するものである(3)市長、市の最高機關にして市を統轄し市を代表する(4)市助役市收入役、其他有給吏員。市長は市會議員の定數は三十人を最低限として市の人口に應じて遞增する、市會議員は市公民より選出されるもので選舉區は無いのを原則とするが市條例を以て之を設ける事が出來る、但し東京大阪、京都の三市は區を以て選舉區となしてゐる。市會は議長一人、副議長一人を議員中より選舉する。市會の招集は市長が司り議員定數三分の一以上より會議に附すべき事件を示して市會招集の請求あるときは市長は之を招集せねばならぬ

(此項未完)

平町の不名譽!
縣下で一ばん惡い
丁壯合格率

既往五ケ年の平均体位

郡下で最も率のよいのは山田村の四三・六%、平町が一九・四%でこれは縣下で最低位

同令部ではこれが原因を調べ今後の向上に資する事とした

本縣種馬共進會
―郡下から二頭出陳―

京大相撲男女の川一行は前の平均甲種合格百分率は本年度帝國軍人後援會の會員章御親授式は畏くも閑院總裁宮殿下の台臨を仰ぎ來月十八日東京市軍人會館の如く新田町其他方面より團體觀覽もあり大混雜に乘行されるが本縣からは御親授有資格者十九名中十一氏が臨席光榮の御親授を受ける事になつた、本郡關係左の如し

△有功會員　江名町田村巍藏

△特別會員　川前村松本豊松　同村根本菊太　豊間村安田善一

郡下で四氏
―帝國軍人後援會章―
光榮の拜受者

天順延の關係から廿四日に閑院宮殿下の台臨を仰ぎ來月十八日東京市軍人會館の如く新田町其他方面より團體觀覽もあり大混雜に乘行されるが本縣からは御親授有資格者十九名中十一氏が臨席光榮の御親授を受ける事になつた、本郡關係左の如し

△有功會員　江名町田村巍藏

△特別會員　川前村松本豊松　同村根本菊太　豊間村安田善一

七百圓の玉逃る
賞金附で捜索願

宮城縣玉造郡鳴子温泉町料理業花園事河村定藏方酌婦指導に任じ其の功績少から中村トリヨ(三〇)は昨年十月ざりし人、葬儀は明二十一日午後三時出棺瑞寶寺に於て執行盛儀を極想されてゐる

女給に沈む一歩前
在郷軍人會分會
改築協議

聯合分會では今二十日藤田會長宅に役員會を開き神谷署へ願ひ出たので林警部は計に關する協議をなした

天氣豫報

(小名濱測候所調測)

今晩は西の風晴

明日は北の風天氣次第によくなる

法燈に暗影絡る
飯野村北白土の寶國寺
住職問題で紛紜

人物に慊焉
檀徒側の排斥理由

石に關し檀徒側では先考法巖師と同じく本人の人物に就て慊らぬ節があるので……

と表面上の反對理由を主張してゐる

近親の間柄
法人師とヨシさん

最近に至り柴田師は前住職の長男たる內郷村御厩阿彌陀寺和田法人師を後任住職として推薦した處種々の關係から七十名の檀徒何れもこれに反對して東京宗務所に陳情する騒ぎに迄立ち至つたので成行きを注目されてゐる

湯本町惣善寺住職森文雄師が宗務所の命によつて兼務してゐたものだが

飯野村北白土の淨土宗寶國寺は目下住職問題でゴタ〳〵してゐる

同寺は前住職和田法巖師が去る昭和八年死亡後同村南白土增願寺住職柴田良昊師が兼務し昨年八月末でその期限が切れ其後湯本町惣善寺住職森文雄師が宗務所の命によつて兼務してゐたものだが

救はれた十八娘
レヴューガールから
女給に沈む一歩前

湯本町台の山松三郎長女小市のカフエーに勤を現し十八日同市柳町カフエーらゝ野とみ(二八)は昨年八月レビュー團林正夫一行のレビューこと森本きみ方へ前借四十五圓で女給となるべく郡山署へ願ひ出たので林警部は計に關する協議をなした

過重勞働の緩和
三等局員增員

愈よ四月から實施

仙遞局ではかねてより管內三等郵便局從業員の過重勞働の緩和を考慮してゐたが過般同局規畫課で實地調査の結果益々その必要を認め早急各三等郵便局の從業員の增員の計畫を進めた、而してこれによれば大体一局當り二人宛の增員を行ふ豫定で恐らく四月頃から漸次この增員が實現すると見られてゐる

募集

少年工場員　二名

小學卒業程度のものにして町內居住者に限る、履歷書姿付のこと、面會日通知す

本社

唄の『市丸』來る

ビクター專屬

唄の『市丸』

伴奏一行出演

新進歌手　久富吉晴
天才作曲家　佐々木俊一

特別出演　平名妓多數

日時　二月二十一日
　晝正月十一日午後二時から二回
　晩　日午後七時から二回

場所　平　館

會員券一枚金壹圓也

生徒募集

本科　五十名　裁縫專修科　百名
專攻科　三十名　師範科　二十名
本科裁縫專修科第二學年補欠　若干名
附設洋裁科　若干名

文部大臣認可

藤田女學校

一、願書受付　三月三十日マデ
二、詳細は學則其他請求ノコト

平町田町（電話三二八）

開店おひろめ

新田町の一角に春の陽ざしを受けてポツチリとリラの花が咲きました。未だ小さな可憐な花です。どうぞ皆樣のお力で育てゝ下さいませ。

洋酒各種
日本酒
喫茶

二月十一日
開店

お勤めの御歸りに、お買物の御序に、お散歩のかたはらに、是非御立寄り願ひます。

平町・新田町

茶房　リラ

職工及徒弟募集

大工職　十名入用
挽物見習　十五名入用

御希望の方は至急申込まれたし

平町十五丁目

各種指物
木製玩具
木工品一式
製作卸

佐藤木工所

電話二五三番

市會

市の議決機關にして市民の公選により選ばれた議員を以て組織され、市長、市參事會員及び議長(市長)を以て組織する市の執行機關にして市の事務を執行する、又市公民より選擧により選ばれた名譽職參事會員及び議長(市長)を以て組織する市の執行機關にして市の事務を執行する、機關(1)

市制

市制とは市なる自治團体の制度を云ふ、但し教育に關しては文部大臣財政に關しては大藏大臣の監督を受ける

平町の市たりなば
主務大臣への直參其他
變つて來る機構の概要

自治團体として法律に反しない限り國家の監督の下に自由に自らの組織を定め、市條例市規則を發布し、市民の公共利益の爲に公共事業を經營し公長は之を招集せねばならぬ

市會

市の議決機關にして市民の公選により選ばれた議員を以て組織され、市長、市の最高機關にして市を統轄し市を代表する(4)市助役市收入役、其他有給吏員。市長は市會議員の定數は三十人を最低限として市の人口に應じて遞增する、市會議員は市公民より選出されるもので選舉區は無いのを原則とするが市條例を以て之を設ける事が出來る、但し東京大阪、京都の三市は區を以て選舉區となしてゐる。市會は議長一人、副議長一人を議員中より選舉する。市會の招集は市長が司り議員定數三分の一以上より會議に附すべき事件を示して市會招集の請求あるときは市長は之を招集せねばならぬ

(此項未完)

天氣豫報

(小名濱測候所調測)

今晩は西の風晴

明日は北の風天氣次第によくなる

三等局員增員
愈よ四月から實施

仙遞局ではかねてより管內三等郵便局從業員の過重勞働の緩和を考慮してゐたが過般同局規畫課で實地調査の結果益々その必要を認め早急各三等郵便局の從業員の增員の計畫を進めた、而してこれによれば大体一局當り二人宛の增員を行ふ豫定で恐らく四月頃から漸次この增員が實現すると見られてゐる

在郷軍人會分會
改築協議

今晩は西の風晴

明日は北の風天氣次第によくなる

唄の『市丸』來る

ビクター專屬

唄の『市丸』

伴奏一行出演

新進歌手　久富吉晴
天才作曲家　佐々木俊一

特別出演　平名妓多數

日時　二月二十一日
　晝正月十一日午後二時から二回
　晩　日午後七時から二回

場所　平　館

會員券一枚金壹圓也

生徒募集

本科　五十名　裁縫專修科　百名
專攻科　三十名　師範科　二十名
本科裁縫專修科第二學年補欠　若干名
附設洋裁科　若干名

文部大臣認可

藤田女學校

一、願書受付　三月三十日マデ
二、詳細は學則其他請求ノコト

平町田町（電話三二八）

開店おひろめ

新田町の一角に春の陽ざしを受けてポツチリとリラの花が咲きました。未だ小さな可憐な花です。どうぞ皆樣のお力で育てゝ下さいませ。

洋酒各種
日本酒
喫茶

二月十一日
開店

お勤めの御歸りに、お買物の御序に、お散歩のかたはらに、是非御立寄り願ひます。

平町・新田町

茶房　リラ

職工及徒弟募集

大工職　十名入用
挽物見習　十五名入用

御希望の方は至急申込まれたし

平町十五丁目

各種指物
木製玩具
木工品一式
製作卸

佐藤木工所

電話二五三番

我に注意

▲一白　逸退にきゆうする日落穴に墜ちたる如くなれん▲二黒　晴耕雨讀かんうを失はんとする日常業に安んじ吉▲三碧　希望も計畫も破くわいせらるゝ日樞動を減しも▲四綠　失ふ所多くして得る所少なしせう愛を費しむ▲五黄　進軍すれば死ぢるゝ〳〵の狀を呈す守備が安全▲六白　期せずして萬事展開すべき幸運日利福あり▲七赤　地位に安んじ分限を知らば益々好轉する日▲八白　山又山を越え來り終に人里に出でたる如し▲九紫　氣運めう盛にして過ちなき勞に任すは不可

暦

旧暦　一月　庚辰　二月　己卯　二月　大安　除　二十一日　鼻宿日

新暦　二月　一日　曜日　一日　月曜　二日　火曜

▲一白　萬事輕快に進捗發展する日迷心は慎むこと▲二黒　くぢちがひを生じて苦勞を招す事あり妄動は凶▲三碧　幸運廻り來りて榮緩は次第に良好となる日▲四綠　大利を獲んとするは自ら根底をくつがへすが如し▲五黄　福運は隣まで來て逃げ去る如き日辛抱大切▲六白　足並乱れて敗走するが如し協力一致が大切▲七赤　忘念を去り無理の願ひを起さゞが安全なり▲八白　一事に望みを置かんとすれば半途につまづきあり▲九紫　業務良好萬事進んで吉祥雜盆雜昏

諸判定應需
東京市本郷區湯島四丁目
高島易斷總本部　神誠　館